

## 調 査 研 究 報 告 書

事業主体名	東京海洋大学 グローバル教育研究推進機構	電話	
代表者職氏名	教授 小松 俊明	ファクシミリ	
調査研究名	震災復興10年の人脈マップ可視化・農家民宿プロジェクト		

## 1 調査研究の実施概要

実施内容	<p>南相馬市の課題解決のために、以下の調査研究を実施しました。</p> <p><b>1. 期間</b> 南相馬市訪問 2020年12月12～13日 第2回訪問は2021年3月6～7日に計画したが、緊急事態宣言により中止した</p> <p><b>2. 場所</b> 農家民宿翠の里、農家民宿いちばん星</p> <p><b>3. 目的</b> 2011年3月に起きた東日本大震災から、もうすぐ10年を迎える。この間に南相馬市と縁があった人々は震災ボランティアやメディア、企業や政府機関、教育機関、そして旅行者など多岐にわたる。今回のプロジェクトは、南相馬市の農家民宿に宿泊した方々と農家民宿オーナーとの出会いを100選（第2回訪問が中止となり、50選に変更）としてまとめることで、全国各地と南相馬市との交流を人脈マップとして可視化させた。ここでまとめた情報が、次の10年にわたり南相馬市と他の地域との新たな交流促進につながることを期待している。</p> <p><b>4. 概要</b> 南相馬市の農家民宿2か所に宿泊して農家民宿オーナーにインタビューを実施し、震災後から10年の間に宿泊した方々に関するヒアリングを行った。農家民宿オーナーの記憶を丁寧にたどり、出会いのきっかけと交流の内容を分析した。もし過去に一度でも南相馬市との関係を築いた方々との縁を継続・復活させることができた場合、今後南相馬市にもたらす影響は何か、そのことについて学生間で議論し、その可能性について考察した。本報告書が南相馬市の発展の一助となることを願う。</p>		
調査研究費	総事業費		132,998円
	うち補助対象経費		132,998円
	補助金額		132,998円
調査研究期間	2020年10月1日 ～ 2021年3月31日		

## 2 事業実施の成果

南相馬市の課題	<p>調査研究により、</p> <p>このプロジェクトに挑戦することに共感した10代と20代の若い大学生は、60代を迎えている農家民宿オーナーの方々と貴重な時間を共に過ごし、インタビューを実施した結果、2軒の農家民宿において合計50件を超える過去の交流のストーリーを知ることができた。すべてが生々しい実話であり、そこには心の痛みと癒し、不条理な現実と希望の光など、心の機微に触れる話がたくさん存在した。</p> <p>私達は、これからも様々な天災と向き合うことになるのだろう。運悪く被災者になる場合もあるかもしれないが、どんな時でも様々な形で支援者になれる。今回のプロジェクトを通して、その思いをあらためて強くした。南相馬市には、全国の人々との繋がりと無形の財産が眠っている。それを今後も継続して掘り起こしていくことが必要である。</p> <p>という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になりました。</p>
課題解決の提言	<p>課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされます。</p> <p>東日本大震災から10年が経つ。この間も様々な天災が日本を襲った。特に昨年来のコロナ禍は、例外なく全ての人の生活に影響をもたらし、私たちは誰もが被災する可能性があると思えるようになった。そして被災から復興する過程では、当事者を支援するネットワークが大切であることもわかってきた。特に、人と人が繋がりを取り戻すこと、さらに新たな繋がりを作ることが鍵となる。3年目の南相馬市への訪問の機会を得た私たちは、震災10年目の節目を迎えるにあたり、南相馬市を舞台にして広がった様々な交流を可視化させたいと考え、農家民宿に宿泊した人たちの等身大の姿を探るプロジェクトを立ち上げたのである。南相馬市のほかの農家民宿に宿泊した県内外の方々と交流の軌跡をさらに調査し、その繋がりを理解しつつ、新たな交流に発展させていくことが、今後の南相馬市の発展に繋がっていくのではないだろうか。</p>

## 3 添付書類（内容が分かるもの）

「報告書\_南相馬プロジェクト2021.pdf」（別途送付済み）